

みやこユニバーサルデザイン賞とは

京都市では、長い歴史の中ではぐくまれてきた支え合いの精神、芸術、技術等の豊かな蓄積に、ユニバーサルデザインを取り入れた社会環境を整備していくことを「みやこユニバーサルデザイン」としています。

この考え方を多くの皆様に知っていただくとともに、ユニバーサルデザインの取組を推進するため、ユニバーサルデザインを踏まえたアイデアや実践活動を募集し、優れた作品を

「みやこユニバーサルデザイン賞」として表彰しています。

過去の受賞作品

みやこユニバーサルデザイン賞 検索



令和3年度みやこユニバーサルデザイン賞

■テーマ：生活の中のユニバーサルデザイン（アイデア部門、エピソード部門）

■募集期間：令和3年6月1日（火）～9月1日（水）

■応募資格：京都市内に在住または通学・通勤している方

■応募数：アイデア部門 553作品／エピソード部門 31作品

■受賞作品数：大賞 アイデア部門 1作品／エピソード部門 1作品

優秀賞 アイデア部門 11作品／エピソード部門 2作品

■審査方法：令和3年10月8日（金）に京都市みやこユニバーサルデザイン審議会の部会で審査し、受賞作品を決定

■審査委員（五十音順）

氏名	所属・職名等
井川 啓	株式会社井川啓デザイン室【部会長・審査委員長】
上田 克枝	一般社団法人京都手をつなぐ育成会
神岡 茂子	公益社団法人京都YWCA
木戸 玲子	公益社団法人京都市児童館学童連盟
阪根 泰子	市民公募委員
高岡 俊裕	公益財団法人京都新聞社会福祉事業団【副部会長・副委員長】
八田 香里	一般社団法人京都経済同友会
古川 泰司	京都商店連盟
本條 裕子	京都弁護士会
保田 美幸	公益社団法人京都精神保健福祉推進家族会連合会

多数の御応募
ありがとうございました。

■問い合わせ先

京都市保健福祉局障害保健福祉推進室 みやこユニバーサルデザイン推進担当

〒604-8006 京都市中京区河原町通御池下る下丸屋町394番地Y・J・Kビル3階

TEL 075-222-4161 FAX 075-251-2940

Eメール syogai@city.kyoto.lg.jp

ホームページ [https://www.city.kyoto.lg.jp/menu3/category/46-3-0-0-0-0-0-0-0-0.html](https://www.city.kyoto.lg.jp/menu3/category/46-3-0-0-0-0-0-0-0.html)

みやこユニバーサルデザイン 検索



令和3年度

みやこ ユニバーサルデザイン賞

じゅ しゅう さく ひん しゅう
受賞作品集

テーマ 生活の中のユニバーサルデザイン

ユニバーサルデザインとは…

みなさんが住んでいる社会では、子ども、お年寄り、身体の不自由な人、右利きの人や左利きの人、生まれた国や言葉・文化の違う人など、いろんな人たちと一緒に生活しています。

そこで、「できるだけ多くの人が

- ①「まち」に出来やすいとする
- ②使いやすい「もの」をつくる
- ③分かりやすい方法で「伝える」
- ④利用しやすい「サービス」を考える

ことで、いろんな人が生活しやすい社会にしていこう」という考え方です。

詳しくは… みやこユニバーサルデザイン 検索



令和3年度みやこユニバーサルデザイン賞

～テーマ 生活の中のユニバーサルデザイン～



体温充電補聴器「充電できTel」

ふじた せな
藤田 晴南 九条弘道小学校6年

アイデア部門 大賞



電池を換えなくてもずっと使える補聴器。
着けていたら人の体温を感じて
充電するところがおすすめです。



補聴器の電池切れ時の不自由さに
着目し、装着したまま、特別の操作
をすることなく、自動で充電できる
という点が素晴らしいと思います。他の小型機
器への活用可能性もあり、地球上にも人にも優
しい、まさにユニバーサルデザインのアイデア
です。体温充電技術は確立されており、今後
実用化が進むでしょう。

イーモールドのところで
人の体温を感じて充電できるように
なっています。
電池を交換なくずっと使えます。

アイデア部門
大賞受賞者の声

今回の受賞を聞いてうれしかったです。いつも補聴器を使っていて、電池がなく
なると聞こえなくなつて困るので、今回のアイデアを考えつきました。家族に受賞を
報告すると「よかつたね」と喜んでくれました。学校では算数や社会、図工が好き
で頑張っています。中学生になったらコンピュータークラブに入って頑張りたいです。



てらだ かのこ
寺田 かのこ 京都すばる高等学校2年

エピソード部門 大賞



「人の為に」

私が最寄り駅に着く時間にいつも見か
ける視覚障害者の方がいます。この時は
とても混んでいて、その方は通路の端に
寄って人混みが収まるのを待たれている
ようでした。

私は声をかけようかどうか迷っていました。
ですが私の後ろから何の迷いもなく
30代くらいのサラリーマンの方が「改札まで
一緒に行きましょう」と声をかけられ
て、私もこの人のように人の為にすぐ動け
るような人になりたいと思いました。

【このエピソードについて】このサラリー
マンの方の行動で、周りの人も温かい気
持ちになつたし、今度は私が自ら行動した
いと思いました。



ユニバーサルデザインの普及は、ハ
ード面の整備も大切ですが、基本
は人を思いやって行動する「心のユ
ニバーサルデザイン」です。誰もが「何か手
助けしたい」と思っていてもすぐ行動でき
ず迷ってしまうことがあります。このサラリー
マンの方も最初はスムーズに行動できなか
ったのではないかでしょうか。作者を含め周囲の
人がこのような場面に出会ったことで、助け
合い、思いやりのある行動を心掛ける好循環
が生まれる予感がします。

エピソード部門
大賞受賞者の声

大賞を取れたことはすごくうれしかったですが、びっくりしたというのが率直な感
想です。

このできごとをきっかけに、障害のある人だけでなく、困っている人に積極的に
声をかけることが大事なんだと思いました。一人一人が勇気を出して一歩踏み出
すことが、ユニバーサルデザインのまちにとって大切なことだと思います。

アイデア部門 優秀賞

優秀賞 こえエレベーター
こにし はる 小西 晴 幼稚園・年長

杖をついたお年寄り、ベビーカーを押している人、身体の不自由な人など行き先ボタンに手の届きにくい人が使いやすいエレベーターはどんなものか考えました。アナウンスが流れて希望する階を言えばその階に連れて行ってくれるエレベーターがあれば便利だと思いました。

審査員のコメント
まだ幼い子どもが、多くの人のために考えたことは素晴らしいと思います。コロナ禍で接触を減らす意味でも、音声で反応し動くエレベーターがあればよいですね。また、聴覚障害がある人のためにボタンも必要かと思います。幼少期からユニバーサルデザインについて考えていく社会になると、未来は明るいですね。



優秀賞 Convenient(便利)トイレ
ひらまつ れいか 平松 礼香 小栗栖宮山小学校6年

弟がトイレをするときに便器が大きくて大変なため、大きさが変えられるようなトイレがあつたら便利と思って考えました。外国の方でも分かるようにボタンの位置や大きさなどを工夫しました。

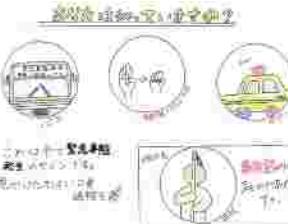
審査員のコメント
トイレは誰にとっても身近で不可欠な存在です。身体の大小にかかわらず、誰もが安心して使えるトイレは必要だと思います。幼い弟さんの困りごとから考えられたアイデアですが、外国人やお年寄りのこと今まで思いを巡らせ工夫を凝らしています。日常の暮らしの中からの発案と表現力を高く評価しました。



優秀賞 Do you know it ?
おざき ひなた 尾崎 ひなた 高野中学校1年

テレビを見ていたとき、世界共通の「助けて」のサインがあると知り、他にもどんなものがあるか調べてみました。これらを知っておくことで誰かの助けになると思ったのでまとめてみました。

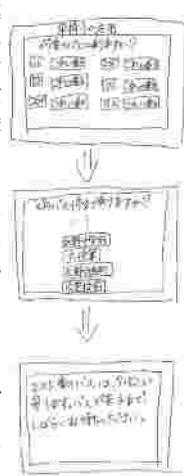
工夫した点は、イラストを使って小さい子どもにもわかつてもらえるようにしたところです。



審査員のコメント
いつ、どこで、どのようなことが起こるかわからないので、こういったサインを皆が知り、対応できるようにすることが大切だと思います。この作品の応募に当たり、応募者自身が調べ学んだ点、ユニバーサルデザインの普及につながるアイデアである点を高く評価しました。

優秀賞 車椅子事前お知らせ機械
さくらい みすず 櫻井 美すず 西京高等学校附属中学校1年

バスに車いすの方が乗ってくる際、運転手の人が慌てて用意をしなくてもよいよう、事前に知らせる機械です。車いすの方が、バス停にある末端から何番のバスに、どこのバス停まで乗るかを選択します。すると、バスの運転手に連絡がいき、「○○のバス停で車いすの方が乗ってられます」ということが伝わります。それによって、バス停に着いたときにスムーズに動けるし、そこまでの停留所でバスが混みすぎないように人数調整もできます。



審査員のコメント
車いすを使用している方は、事前にバス運転手に知っておいてもらえるという安心感があり、バス運転手も事前に分かることで、車いすスペースの確保を乗客に呼び掛けられることでき、双方の心の負担を軽減したり、スムーズな乗車に役立つ素晴らしいアイデアです。

優秀賞 ポイ捨て回収ロボット
きむら ひかる 木村 光 向島南児童館 小学校6年

みんなに助け合う心を持ってもらえるようにする工夫として、人がごみを入れるとロボットが喜ぶようにしました。ポイ捨てがなくなることによって、ボランティアに頼らないで、まちの人が安心して過ごすことができる点がユニバーサルデザインです。



審査員のコメント
子どもらしいかわいらしい発想で、思やりの心を人にもロボットにも持たせる工夫に心が温まりました。さらに、ポイ捨ての削減やまちの人の暮らしにまで思いをはせる想像力にも感心しました。

優秀賞 らくらくポスト
まつみや げん き 松宮 弦希 高野中学校1年

車いすに乗っている人はポストの投入口に手が届かないと思うので、下の方に投入口を付けて、入れやすいようにしました。また、これは小さな子どもが入れようとするときにも使うことができます。

工夫したところは、上の投入口から下の投入口に向けて矢印を付けて分かりやすくしたことです。



審査員のコメント
確かに既存のポストの投函口は車いす使用者や子どもにとっては高すぎます。低い位置に投函口があるポストもありますが、まだまだ普及していない状況です。難しい技術を使うことなく実現できるアイデアであり、社会の至らない部分に着目した点を高く評価しました。

優秀賞 もっと多か国語表示
うの いつき 宇野 樹 西京高等学校附属中学校1年

「トイレ」などのプレートにはだいたい日本語、英語、中国語、韓国語の4ヶ国語で書いてあります。しかし、世界には、もっといろんな言葉があります。このアイデアは、4ヶ国の表示以外に、QRコードを貼つておき、スマートフォンをかざすと世界の国々の言葉がズラッと出てくるというものです。すべてをプレートに書くことはできないので、今では大体の人が持っているスマートフォンを使ったところを工夫しました。

審査員のコメント
最近では、英語圏等以外からの方も増えてきており、多言語化への対応が必要となっています。このアイデアは様々な言語使用者に配慮されており、ピクトグラムなど単純な表示では説明しきれない情報（注意・危険を知らせる情報や観光地や美術品の説明・解説など）を正確に伝えるのとても役立つと思います。

優秀賞 役立つくん
もり こと 森 心音 西賀茂中学校3年

視覚障がいの方などが買い物するときに何という商品か、どこ産なのかをちゃんとわかって買えたら便利だなと思いました。



押すボタンがあると分かりにくいので、ボタンなしでかざすだけでよいようにしました。

審査員のコメント
身近に聞いた話から、視覚障がいのある方や高齢の方の日常の不便さに思いを寄せ、それを解消する方法を検討したことや、「かざすだけ」という使いやすさの工夫が素晴らしいと思います。多言語対応などもできれば、より幅広く便利に使えそうですね。

アイデア部門 優秀賞

チケットレス改札口

橋本 大毅 西賀茂中学校3年

現状、電車やバスの改札は右側にしかなく、左利きの人には不便です。最近ではチケットレスの特急券があり、ネットで購入してスマホの画面を見せると改札口を通過できます。特急券以外もチケットレス化すればよいのではないかと考えました。スマホを持っている人はスマホに切符の情報を入れ、スマホを持っていない人はICカードを連携させ通過できるようにします。母が左利きでよく不便だと言っていたり、試合に行くときなどに、駅などで困っている人をよく見るので、助けたいと思いました。



左利きの人、障がいのある人、いろんな人にとって便利なアイデアです。アイデア発想に当たっての現状認識、問題提起、解決策の提示という過程も分かりやすく、左利きの人に便利だけでなく、混雑対策、感染症対策としても有効であることにも気づいた点も素晴らしいです。実用化されてほしいですね。

Announce Bangle

中神 優菜 京都すばる高等学校2年

音や声が聞こえづらい人や耳が不自由な人向けのアイデアを考えました。例えば、家中でお湯を沸かしている時、その場所におらず、やかんの鳴っている音やタイマーの鳴る音が聞こえない場面があります。そんな時に、私の考えた〈Announce Bangle〉を使えば、離れた場所でもバンブルが光って教えてくれます。使用方法は、鳴ると知らせてほしい音をセンサーに登録し、センサーを壁に設置するだけです。あとは音が鳴ればセンサーが感知しバンブルが反応してくれます。操作方法や設定がシンプルなので、年配の方にも使いやすい設計になっています。

センサーに登録すると感知したい音に反応して光るという便利さ、デザインのスマートさ、さらに装着感にも配慮されている点が良いと思いました。耳の不自由な人だけでなく、多くの人の「うっかり」に対応できるのではないかでしょうか。さらにバイブレーション機能などがある良いかもしれません。

熱くならない器

當森 咲月 京都すばる高等学校2年

熱いものを入れたり、電子レンジなどで温めたりすると熱くなる器。温めて熱くなった器を子どもはもちろん大人でも持つことができなかつたり、やけどをしてしまったりします。

そこで私が考えたアイデアは、熱いものを入れても、電子レンジなどで温めても熱くならない器です。器の下の部分の水色になっているところは温めても熱くなりません。また、器の下の部分は赤色か青色かで中の物が熱いのか冷たいのか色で表すことができ、見た目で判断することができるようになっています。

だから、持つこともでき、けがしない、子どもも大人もいろんな人が安全に簡単に使うことができます。

日頃、熱いものが入った器や電子レンジで温めた器は、熱いことを当たり前のこととして気を付けてきましたが、その前提を覆す発想や、日常の何気ない不自由さを見出す姿勢が素晴らしいと思います。誰もが安全で使いやすいという点も高く評価しました。



エピソード部門 優秀賞

今村 虎大

京都すばる高等学校2年

気持ちで十分

僕は、通学中に駅である光景を見ました。それは、駅の段差で高齢者の方がカートを持っていてうまく上れずに困っているところを、一人の外国人の方が助けていたところでした。

そこから僕は、人を助けるには言葉なんて必要ないんだな、気持ちだけでいいんだなということがわかりました。

【このエピソードについて】人を助けるには言葉なんて必要なく、誰でも簡単にできることだということ。助けようという気持ちさえあれば可能なことで、子どもでも、今回のように外国人でも高齢者でも誰でも助けることはできるし、助けられることもできます。

言葉の異なる国で生活していくことは気苦労の多いものです。日常生活で何か困っていることがあっても、周囲に頼んだり尋ねたりするのは勇気がります。今回は逆の立場で「気持ちでサポートできる」ことを実感できたことがよかったです。文章表現も良いと思います。

おばあちゃんとの電話

朝の登校前の数分間、僕は毎日おばあちゃんと電話をする。特にこれといって話すことはない。あいさつから今日も頑張っていこうね。本当にそれだけ。でもそのたわいもない会話がおばあちゃんの生きがいと言っていた。

僕は、その数分間の電話をこれからも大切にしていきたいと思った。みんなが居心地よく生活して人生の楽しみを作っていていいなと思った。

【このエピソードについて】病院を出てから少し病んでいたおばあちゃんが、家に帰ると話す人がいないからと電話をかけてきた。僕が家を出る数分前に電話をかけるのをいつも待ってくれている。このような人それぞれの生きがいや生きる理由を大切にすることがユニバーサルデザインだと思いました。

おばあちゃんを思いやり、毎日持続して電話するやさしさ。電話の向こうのおばあちゃんがにっこり笑っている姿が思い浮かびました。何気ない自分の行動が誰かの支えになっている、その気持ちが身内に中だけにとどまらず、皆を思いやる気持ちに繋がっています。そのような気持ちがユニバーサルデザイン社会をつくる一歩だと思います。

令和3年度みやこユニバーサルデザイン賞審査委員長所感

総評

今回も、多くの人のためになる優れたアイデア、ふだんの生活の中で見たり体験した心温まるエピソードが多く寄せられました。ユニバーサルデザインの普及と発展は、一人一人の暮らしの中での気付きから始まります。寄せられた作品を参考に、ユニバーサルデザインの視点で社会を考えるきっかけにしていただければ幸いです。

アイデア部門

特に今回はデジタル技術やロボットなどを利用したアイデアが多く寄せられ、新しい時代の流れを強く感じました。その一方で、投函口を低くしたポスト、助けてサインをまとめたポスターなど、新しい技術に頼らない優れたアイデアもありました。先端技術や情報に疎い高齢者や、機器が発する電磁波に影響を受けやすいペースメーカー装着者などの存在も忘れてはならず、今後、人間の温かみと技術のバランスを取ったユニバーサルデザインのアイデアが寄せられることを期待します。

エピソード部門

今回も、心温まるエピソードが多数寄せられました。皆が豊かに暮らせる共生社会を実現するためには、人を思いやり助け合う、心のユニバーサルデザインが基本になります。困っている人に声をかけ行動する勇気を持つことを、我々一人一人が心がけていきたいと思います。